

# 大 理 数 系 の 面 白 さ 堂 々 と

## 弘 3 高 校 113 人 が 研 究 発 表

県高校理数系課題研究発表会が23日、弘前大学で開かれ、五所川原高校理科、三本木高と八戸北高のSSH(スーパーサイエンス)

3.9
14.2
18.4
25.3
27.7
33.6
40.3
45.0



スクリーンに映した表を使い、研究結果を発表する高校生

ハイスクール)クラスの2年生計113人が、研究の成果を披露した。生徒たちは数学・地学、物理、化学、生物の4分科会で、スクリーンに表やグラフなどを示しながら研究内容を説明。同大の教員が実験や調査の方法、今後の研究の進め方について助言した。

物理分野では、五所川原高の生徒が、米国の大学などで使われている教科書の和訳に挑戦した。「ニュートンの運動の法則」の項を4人で分担して訳し、「英語の教科書は例えが多く、説明が分かりやすかった」など感想を述べた。

生物分野では、三本木高の生徒が十和田市と東北町で採取したゲンジボタルのDNAを解析し、2市町では本県固有の個体が保たれていると考察した。杉澤麻彩さんは「大学の先生たちの指摘がた

めになった。来年ある英語での発表につなげたい」。館花美沙子さんは「プレゼンテーションの仕方や、貴重な経験ができた」と話していた。  
(新村菜穂)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです  
[問合せ先]弘前大学理工学部 hcp@st.hirosaki-u.ac.jp